

阿蘇立野ダム水源地域ビジョン



阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会
令和6年3月

目 次

第 1 章 水源地域ビジョンの概要	1
1.1 策定の目的	1
1.2 対象範囲	2
1.3 策定の方法	3
1.3.1 策定主体	3
1.3.2 策定の手順	4
第 2 章 水源地域の現状	5
2.1 ダムの概要	5
2.2 ダムの関連計画	7
2.2.1 多目的記念館(仮称)	7
2.2.2 その他	8
2.3 周辺の資源	9
2.3.1 地域資源(広域)	9
2.3.2 地域資源(阿蘇立野ダム周辺)	10
2.3.3 地域資源(利用状況)	11
2.4 地域の関連計画	12
2.4.1 南阿蘇村	12
2.4.2 大津町	15
2.4.3 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり計画	18
第 3 章 取組みの理念	21
3.1 将来像	21
3.2 基本方針	21
第 4 章 施策メニューの具体的な内容	22
4.1 施策の体系	22
4.2 行動計画	23
4.2.1 溪流の恵みに親しむ・遊ぶ	23
4.2.2 雄大な自然を活かす・楽しむ	24
4.2.3 交流と連携でともに創る	25
4.2.4 記憶と知恵を未来に繋ぐ	26
第 5 章 推進方策	27
5.1 推進体制	27
5.2 推進スケジュール	28

第1章 水源地域ビジョンの概要

1.1 策定の目的

阿蘇立野ダムは、白川沿川の洪水被害を防ぐことを目的として白川と黒川の合流地点から約 1km 下流に建設された洪水調節専用ダム（流水型ダム）です。ダム周辺には“立野峡谷”や“柱状節理”等の自然地形のほか、九州中央部に位置する“阿蘇くじゅう国立公園”、国の天然記念物の“阿蘇北向谷原始林”、“阿蘇ユネスコ世界ジオパーク”等、豊かな自然環境が広がっています。

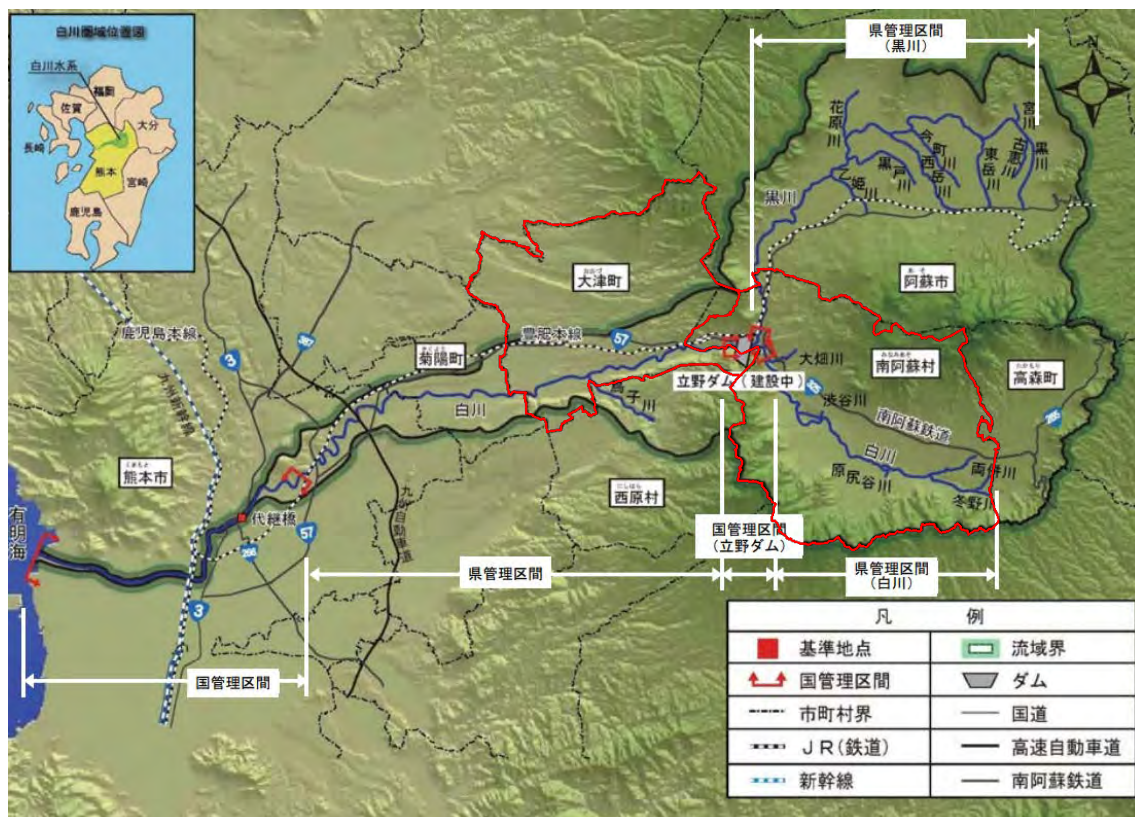
恵まれた地域資源をもとに、また平成 28 年に発生した熊本地震により甚大な被害を受けた当該地域の創造的復興（南阿蘇村復興むらづくり計画）に資することも含め、ダム周辺の豊かな自然環境・歴史・文化・観光資源・人材などを活用し、水源地域の自立的・持続的な活性化を図るための行動計画として「阿蘇立野ダム水源地域ビジョン」を策定しました。

ダム本来の機能である治水に加え、阿蘇カルデラの玄関口にあたる非常に雄大で魅力ある自然環境に代表される多様な地域資源を広く利用できるよう、ハード・ソフト両面の総合的な整備により、水源地域の復興を促進する効率的な相乗効果を図り、実効性のある取り組みを目指します。



1.2 対象範囲

地域活性化を図る水源地域ビジョンの対象範囲は、南阿蘇村及び大津町とします。



水源地域ビジョンの対象範囲

1.3 策定の方法

阿蘇立野ダム水源地域ビジョンの策定方法としては、阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり計画における地域特有の水辺空間の形成を効率的に活用し関連町村や流域関係者が一体となって水源地域の活性化を推進するため、「阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会」及び、その実践組織である「阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会」を母体とします。

1.3.1 策定主体

水源地域ビジョンの策定は、南阿蘇村の関係組織および国土交通省から構成される「阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会」が主体となって進めました。水源地域ビジョンの具体案は、阿蘇立野ダム周辺の南阿蘇村や大津町の関係組織から構成される「阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会」にて検討され、協議会の承認を得て策定されました。

阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会

所属
南阿蘇村 村長
阿蘇立野ダムみらい活性対策特別委員会 委員長
国立大学法人熊本大学 准教授・博士
阿蘇ジオパーク推進協議会 事務局長
一般社団法人みなみあそ観光局 代表理事/南阿蘇村商工会 会長
国土交通省九州地方整備局立野ダム事務所所長

阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会

所属
立野地区 区長
新所区 区長
立野駅区 区長
栃木区 区長
一般社団法人みなみあそ観光局
南阿蘇村商工会
阿蘇ジオパークガイド協会 会長
株式会社あそ望の郷みなみあそ 代表者
南阿蘇鉄道株式会社 総務部長
ニコニコ饅頭
有限会社木之内農園 代表取締役社長
小山旅館 支配人
東急リゾート&ステイ株式会社 資産企画部 調査役
東急リゾート&ステイ株式会社 資産企画部 統括部長
東急リゾート&ステイ株式会社 地域創造統括部 シニアマネージャー
九州電力株式会社水力開発総合事務所
立野たんぼぼの会
立野わかもん会
大津町都市整備部建設課 課長
大津町都市整備部建設課 係長
大津町産業振興部商業観光課 課長
大津町産業振興部商業観光課 係長
立野ダム工事事務所 技術副所長

1.3.2 策定の手順

阿蘇立野ダム水源地域ビジョンは、以下の日時に検討が進められました。

阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり計画の策定会議 開催日時

会議名	開催日時
第1回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会	令和5年2月17日（金）
第1回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会	令和5年3月22日（水）
第2回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会	令和5年4月19日（水）
第3回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会	令和5年5月25日（木）
第4回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会	令和5年6月27日（火）
第2回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会	令和5年10月17日（火）
第5回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会	令和6年1月12日（金）
第3回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会	令和6年3月25日（月）



第1回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会



第2回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会



第1回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会



第2回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会



第3回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会



第4回 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会

第2章 水源地域の現状

2.1 ダムの概要

阿蘇立野ダムは白川と黒川の合流地点から 1km ほど下流の左岸を大津町、右岸を南阿蘇村に位置する、ダム本体に 3 門の放流穴を供える治水専用の流水型ダムです。昭和 28 年 6 月洪水と同程度の大雨を安全に流すことを目指し、増水時のみダムに水を貯蓄して洪水調整を行うため、平常時は流水を貯めずに通常の川と同じ状態となることが特徴です。

阿蘇立野ダム諸元

位置	左岸：熊本県菊池郡大津町大字 ^{ほかもき} 外牧地先 右岸：熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字 ^{たての} 立野地先		
河川名	白川水系白川	堤高(高さ)	87m
ダム名	立野ダム	堤頂長(長さ)	197m
型式	曲線重力式コンクリートダム	堤体積(減勢工を含む)	約40万 m^3
集水面積	約383 km^2	天端高	標高282.0m
湛水面積	約0.36 km^2	洪水時最高水位	標高276.0m
総貯水容量	約1,010万 m^3	計画堆砂量	約60万 m^3

・曲線重力式コンクリートダム

コンクリートの重さで水の圧力に耐えるダム
曲線にすることにより、水の圧力を地山側面にも分担することができる

・集水面積

降った雨がこのダムに集まってくる範囲の面積

・湛水面積

洪水時最高水位における貯水池の水面の面積

・総貯水容量

ダムに貯めることのできる水の総量
立野ダムは、洪水調節専用(流水型)ダムであり、常時は水を貯めていない

・堤高

基礎岩盤からダム天端までの高さ

・堤頂長

ダムの一番高い部分の長さ

・堤体積

ダムの体積

・減勢工

ダムの放流の水の勢いを弱める構造物

・天端高

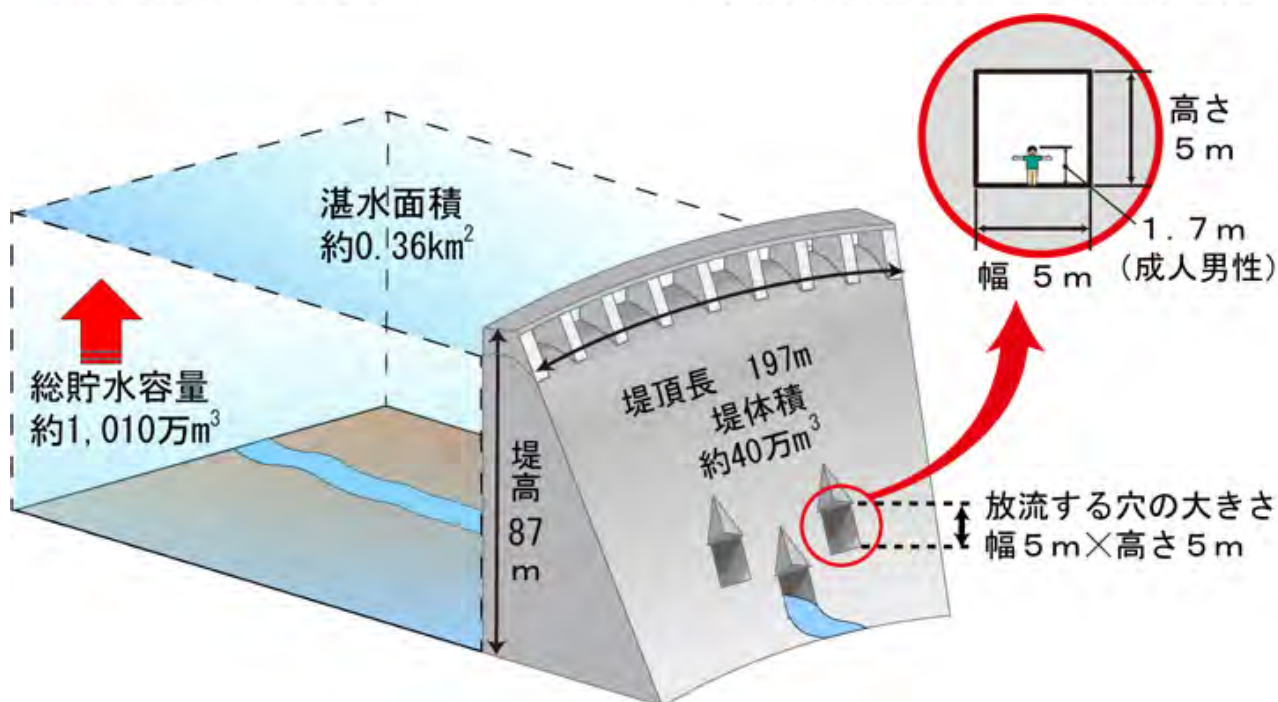
ダムの一番高い部分の高さ(標高)

・洪水時最高水位

洪水時にダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位

・計画堆砂量

100年間にダム貯水池に貯まる土砂量(立野ダムの場合は流水型ダムであり常時貯水されていないため、100年後の貯水池内の河床の変化と洪水時に一時的に堆積する土砂量より算出)





阿蘇立野ダム本体(上流より下流を望む)



阿蘇立野ダム本体(下流より上流を望む)

2.2 ダムの関連計画

2.2.1 多目的記念館(仮称)

阿蘇立野ダム完成後、右岸にある仮設備ヤード跡地において、南阿蘇村が「多目的記念館（仮称）」の整備を予定しています（令和6年度整備予定）。

整備後には多目的記念館（仮称）と一体となったダム周辺の河川空間の利活用（カヌー、キャニオニング、キャンプ、BBQ 等）が検討されています。



多目的記念館(仮称) 整備イメージ

2.2.2 その他

より多くの観光客を南阿蘇村に誘引し地域振興に資することを目的に、地域が主体となったインフラツアーの仕組みづくりも進行しています。全国の旅行代理店とのインフラツアー視察・意見交換会や、ダムガイドの育成等が行われており、阿蘇の観光資源と阿蘇立野ダムを連動させたインフラツアー等の商品化が進められています。

インフラツーリズム

立野ダムのインフラツアーは、ダムガイドの研修を受講し、南阿蘇村長が認定した「阿蘇立野峡谷（立野ダム）ガイド」の案内のもと催行されます。ダムガイドは、南阿蘇村在住の阿蘇ジオパークガイドでもあり、ダムとジオを合わせたガイドが好評です。（一社）みなみあそ観光局がガイド手配やガイド料金等の運用をおこなっています。

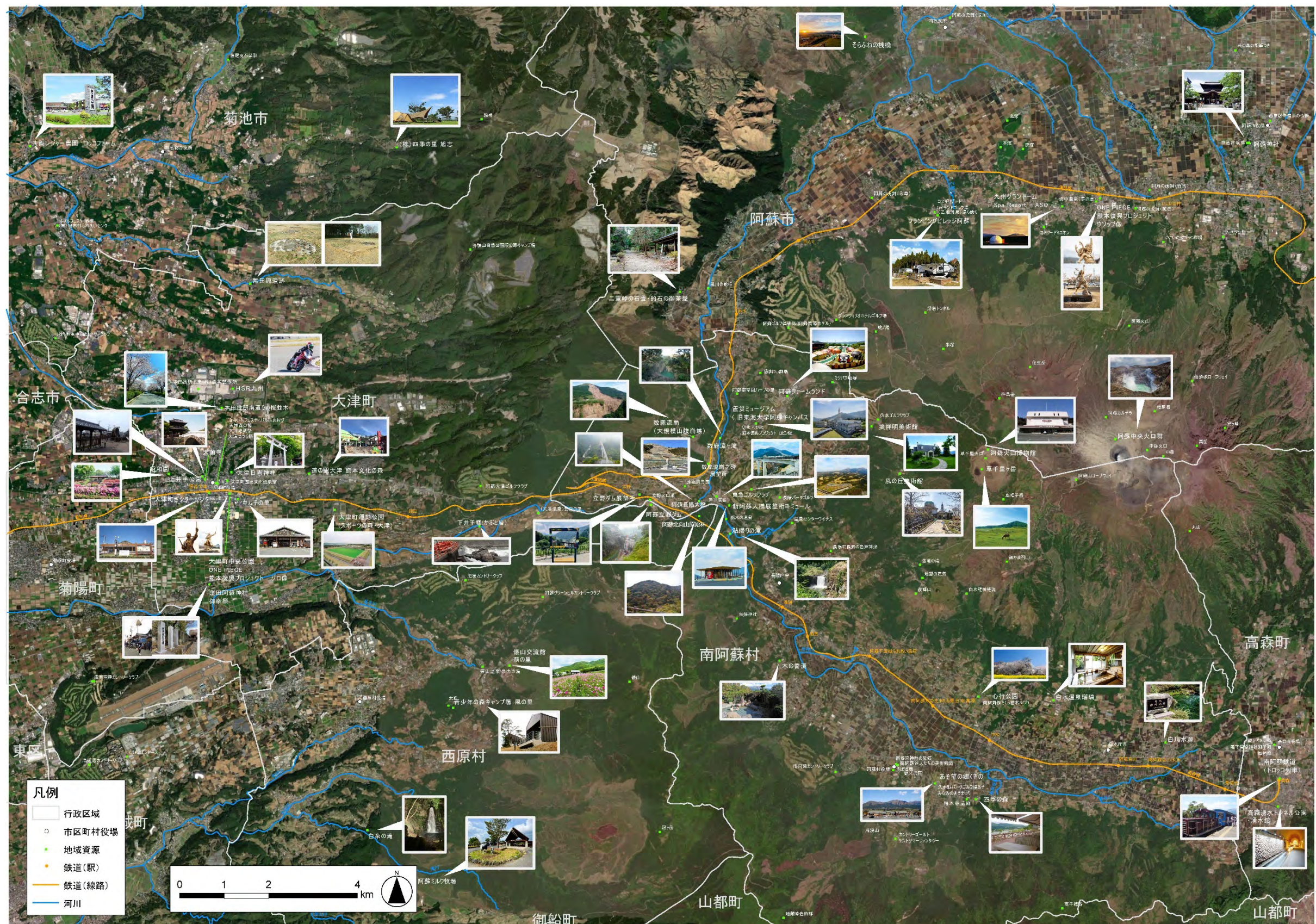
●みなみあそ観光局
TEL：0967-67-2222



2.3 周辺の資源

2.3.1 地域資源(広域)

水源地地域の周辺には、豊かな自然環境をはじめ多様な歴史文化、多くの観光施設等の地域資源があります。



水源地域の広域資源マップ

2.3.2 地域資源(阿蘇立野ダム周辺)

水源地域ビジョンの対象範囲には、立野峡谷や柱状節理等の自然地形のほか、白川橋梁や阿蘇北向山原始林など魅力ある景観が多く、それらを望める展望所が点在しています。また、震災の記憶や教訓を後世に繋ぐための震災ミュージアムや南阿蘇復興公園等の施設もあります。



立野峡谷/柱状節理

阿蘇ユネスコ世界ジオパークに認定されている阿蘇地域の立野峡谷には、川岸に広範囲にわたって柱状節理が露出しており、ジオパークの見どころ「ジオサイト」にも指定されている。柱状節理は、固まった溶岩に角材状の割れ目が縦に入る現象。



第一白川橋梁

南阿蘇鉄道 高森線立野駅-長陽駅間に位置する全長 166.3m の単線鉄道橋。熊本地震により橋台や橋脚の移動、部材変形といった損傷を受け、架け替え工事が行われた。約 7 年 3 か月ぶりとなる令和 5 年 7 月 15 日より南阿蘇鉄道の全線運転が再開された。



阿蘇北向谷原始林

白川（立野峡谷）の左岸に広がる、国の天然記念物に指定されている原始林。標高 790m の北向山は、外輪山が白川の流れに削られた険しい北向きの斜面で、シイ・カシ・タブ・モッコクなどの常緑広葉樹を主とする。低地の身近なところにこのような自然が残っているのは全国的にも稀。



新阿蘇大橋展望所 ヨ・ミュール

新阿蘇大橋のたもとにある展望所。ヨ・ミュール(ヨミュール)は熊本弁で「良く見える」の意味。展望スペースからは新阿蘇大橋、長陽大橋、白川第一橋梁(南阿蘇鉄道)を眼下に望むことができる。集会場(みんなの家)を移築した休憩施設にはトイレもあり、ご当地ジェラートなどが楽しめる。



数鹿流崩（大規模山腹崩壊）

平成 28 年熊本地震で最大級の斜面崩壊となった数鹿流(すがる)崩れ。その被害を後世に伝えるため、山のふもとにある展望所には自然災害伝承碑「数鹿流崩之碑(すがるくずれのひ)」が設置されている。展望所からは「旧阿蘇大橋の橋げた」や「新阿蘇大橋」を望むことができる。



2.3.3 地域資源(利用状況)

水源地域ビジョンの対象範囲では、フットパスやマルシェ、インフラツアー、各種祭り、花畑づくりなど、地元住民や様々な関係機関による地域活性の取り組みが行われています。



立野地区フットパス



手ぶらでキャンプ&サウナ体験



阿蘇立野ダムインフラツアー



川の清掃活動

2.4 地域の関連計画

2.4.1 南阿蘇村

「第2次南阿蘇村総合計画【後期基本計画 2022-2025】」（令和4年3月）では、“誰もが住みたい 住み続けたい 南阿蘇村”を将来像に掲げ、環境・活力・暮らしを〈政策の柱〉として掲げ、それぞれの柱に対応する政策（本村の現状と課題を踏まえた戦略）・施策（戦略を実現するための具体的な方策）を結びつけ、これを「施策の大綱」としています。

政策の柱Ⅰ 環境

世界的にも稀少である清らかな水が生まれる環境と、世界に誇れる阿蘇の自然遺産を将来にも継承できるよう、大切に維持できるむらづくりを推進します。
また、再生可能エネルギーの普及促進に努め、自然環境の活用に関する施策も進めます。
恵まれた自然は、本村のむらづくりの全ての源であり、本村の誇りであることを村民の誰もが共有します。

政策の柱Ⅱ 活力

豊かな自然環境を有効に活用しながら、「農業が元気なむらづくり」と「魅力ある観光資源の創造」を目指し、本村ににぎわいや経済効果を生むむらづくりを推進します。
また、「村民主体のむらづくり」を可能とするために、子どもからお年寄りまでたくさんの村民が、本村の活力となる施策を展開します。
併せて、村の人口をまずは熊本地震以前に戻すべく、移住・定住促進の取組に力を入れていきます。

政策の柱Ⅲ 暮らし

本村に住む全ての人々が助け合いながら、自分らしく心豊かに暮らしていけるむらづくりを推進します。
また、子育て世代に選ばれるむらづくりや健康長寿のむらづくりを推進し、村民の誰もが、生涯、元気で生きがいをもって、自立的な生活を送ることができる環境づくりを進めます。
併せて、熊本地震の教訓を生かし、災害に強く、安全・安心に暮らせる基盤の充実に図ります。

① 環 境



政策 1

自然環境の保全と活用

- 施策1 水環境の保全
- 施策2 地域資源を活用した再生エネルギーの普及
- 施策3 水道施設の整備
- 施策4 循環型社会の構築
- 施策5 自然環境への配慮
- 施策6 阿蘇の景観保全と活用
- 施策7 景観に調利する施設整備



② 活 力



政策 2

地域特性を生かした産業振興

- 施策8 “攻め”の農林畜産業の推進
- 施策9 持続する林業体制づくり
- 施策10 商工業の振興及び起業・創業の支援
- 施策11 地域の雇用を生み出す企業誘致
- 施策12 魅力ある観光交流の推進

政策 3

ともに学び育て合う未来の人づくり

- 施策13 ふるさとを担い、未来を開く子どもの育成
- 施策14 生涯学習・生涯スポーツの推進
- 施策15 歴史文化遺産の継承・保存活用と芸術・文化活動の充実

③ 暮らし



政策 4

安心・安全で幸せを感じるむらづくり

- 施策16 防災・減災対策の充実
- 施策17 交通安全・防犯体制の充実
- 施策18 子育て支援の充実
- 施策19 生涯を通じた健康づくりの推進
- 施策20 高齢者が安心して暮らせる環境づくり
- 施策21 障がい者がいきいき暮らせる環境づくり
- 施策22 地域福祉の推進

政策 5

便利で住みやすい定住のむらづくり

- 施策23 移住・定住の推進
- 施策24 利用しやすい公共交通ネットワークの構築
- 施策25 道路網整備の促進
- 施策26 ICT技術の活用
- 施策27 公共施設の活用と整備

政策 6

暮らしを支える行政運営の推進

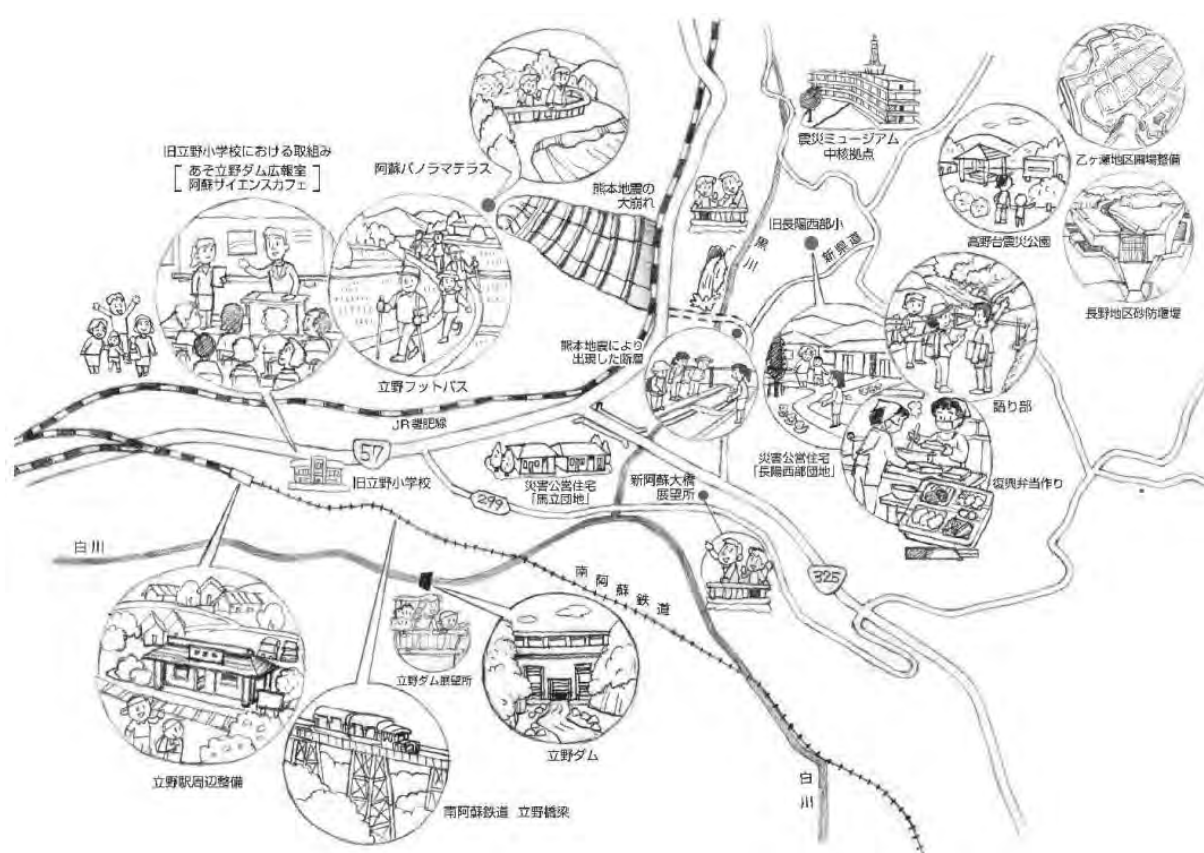
- 施策28 信頼される行政運営の推進
- 施策29 健全な財政運営の強化
- 施策30 開かれた村政の推進

なお、総合計画の下位計画である「南阿蘇村復興むらづくり計画【改訂版】」（令和2年2月）においては、「1.村民生活の再生」「2.産業・経済・観光の再生」「3.自然災害に対する安全・安心の確保」の3つを軸とした復興計画をまとめており、そのうち2の基本方針である「観光・景観の再生・充実」では、「新たな観光スポット等の創設」に取り組むこととしています。

阿蘇立野ダムを含む立野峡谷周辺の整備イメージは、以下のように描かれています。

取組8：【変更】新たな観光スポット等の創設△

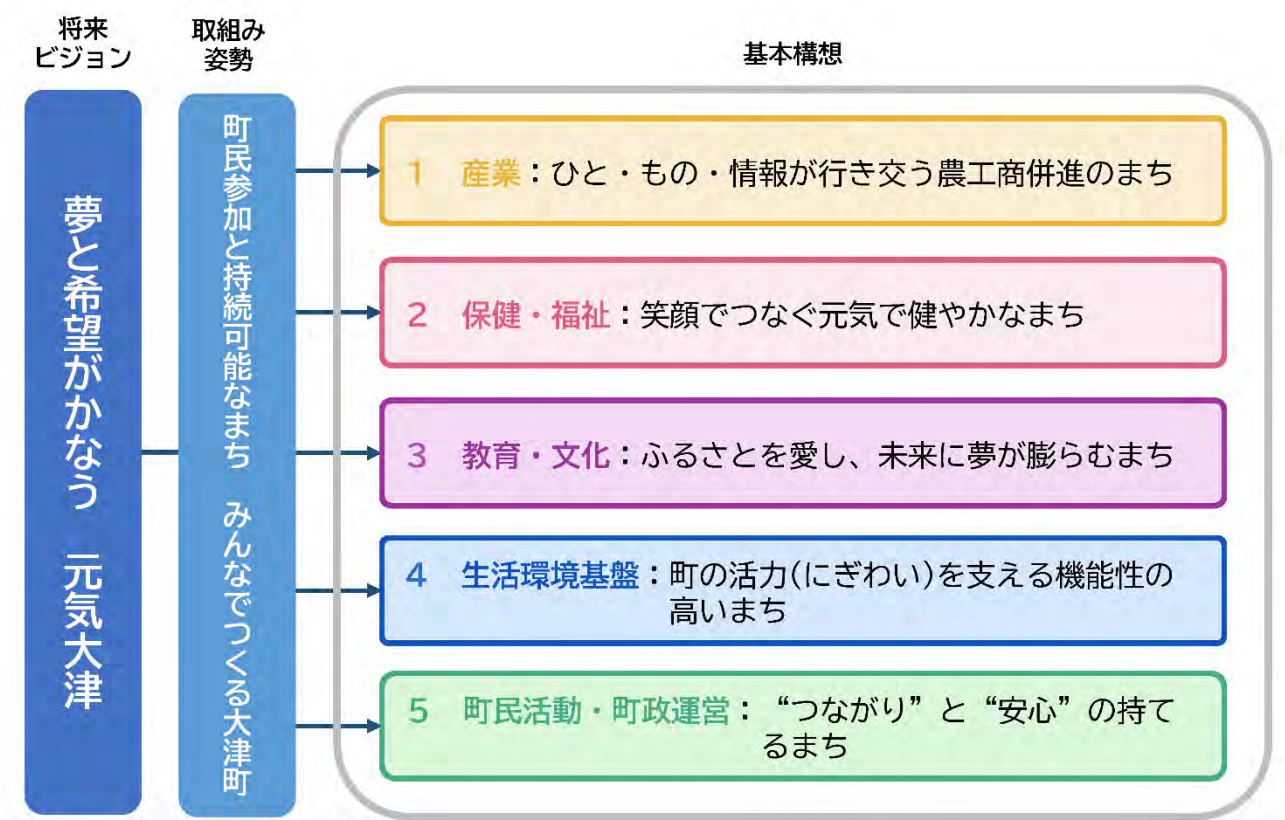
…村民アンケートにおいて、村にとって大きな復興につながると思う取組として、「新たな観光スポットの創設（26.2%）」が比較的多い割合を示しており、また各復興むらづくり協議会からも賑わいの回復に必要な意見があることから、新たな観光スポットの創設を目指します。取組にあたっては、新阿蘇大橋の開通や震災ミュージアムの建設、南阿蘇鉄道・JRの復旧等、将来的に大きな集客が期待できる立野峡谷周辺を中心として周辺地域への回遊性を持たせることを視野に、国や県、民間企業等と連携して進めます。



立野峡谷周辺整備イメージ(ラフ図)

2.4.2 大津町

「第6次大津町振興総合計画【後期基本計画 2022-2025】」（令和4年3月）では、“夢と希望がかなう元気大津”を将来ビジョンに掲げ、一人ひとりの知恵や力を活かして、より良い大津町を創るために、町民と町がともに考え、役割を分担しながら町民主体のまちづくりを協働して進めることとしています。また、多様な個人や地域団体の連携によって「自助」「共助」「公助」に加え「近助」の取り組みが地域を創り支えていく地域社会を築くとともに、町外の市町村や団体などとも広く連携をしながら、創意工夫に満ちた自主的・自立的なまちづくりを進めることとしています。



産業分野の施策の大綱「ひと・もの・情報が行き交う農工商併進のまち」における基本施策「観光の振興」においては、「地域特性（自然・宿場町）を活かした観光・交流の促進」を進めることとしており、特に阿蘇立野ダム周辺の水源地域に関わる方針としては「観光資源の磨き上げおよびPR強化」及び「滞在型・体験型観光の振興」がうたわれています。

5つの政策分野

1 産業 ～ひと・もの・情報が行き交う農工商併進のまち～

農工商すべてが盛んである大津町の特性や地域資源を活かした産業の創出・活性化を推進します。

産業の振興に継続的に取り組み、産業と雇用を守りながら地域経済を活性化させるとともに、社会経済環境の変化や地域ニーズに対応した取組みを進めます。

阿蘇くまもと空港駅（肥後大津駅）や大津町運動公園などの機能、そして町の豊かな自然や宿場町としての歴史的資源などの地域特性を活かし、多くの人が訪れ賑わうまちを目指して商業や観光の振興を図ります。



2 保健・福祉 ～笑顔でつなぐ元気で健やかなまち～

町民が、いつまでも役割や生きがいを持ちながら、健康で楽しく安心して暮らせる福祉のまちづくりに取り組みます。

そのために、高齢者や障がいがある人への支援の充実や地域で支え合う環境を整備するとともに、子育て世帯が安心して出産・子育てができるよう支援します。

また、健康づくりや病気の予防、医療機関との連携拡充などにより保健・医療を充実します。



3 教育・文化 ～ふるさとを愛し、未来に夢が膨らむまち～

「夢を持ち、夢を育み、夢を叶える教育実践」のもと、「生きる力を身につけ、よき社会の形成者として未来を拓く子どもの育成」を目指して、地域や家庭と学校・園が協力して、子どもたちの夢の実現を支援します。

家庭教育を基盤とし、子どもたちの基本的な生活習慣や態度、豊かな感性などを育むとともに、学校教育を通じて豊かな心や学力、健康・体力などの資質や能力を育みます。

また、生涯学習やスポーツ環境整備、歴史や文化芸術を楽しむ機会の充実を図り、生きがいと心の豊かさや、地域に対する愛着と誇りを持った人材づくりを推進します。



4 生活環境基盤 ～町の活力(にぎわい)を支える機能性の高いまち～

社会経済状況の変化に対応し、町民の暮らしやまちの持続的な発展を支えるため、機能的・安定的な都市基盤整備や土地の利活用を推進します。

計画的な道路インフラの維持・整備や、利便性の高い公共交通体系の構築を進めるとともに、豊かな自然と多様な都市機能が調和する町の実現に向けて、環境にやさしく高質で機能的な都市空間を創ります。

また、上下水道や生活道路など住民の日常生活や町の産業を支える快適な都市基盤を創出するとともに、町民の命を守ることでできる危機管理・地域防災強化に向けた取組みを進めます。



5 町民活動・町政運営 ～“つながり”と“安心”の持てるまち～

町民と町が一体となって共に考え、町民、事業者、行政がそれぞれの役割と責任を果たしながら、協働・連携していくまちづくりを進めます。

町民が行政運営に参加できる場づくりや、町民の主体的な活動への支援を行いながら、人が育ち、地域が活性化する環境を創るとともに、少子高齢化から生じる社会保障費の増大など、財政への影響を見据えた持続可能な町政運営を進めます。

また、人権意識の高揚や男女共同参画を推進することにより、人権が尊重される社会を築きます。



1-4-1 観光資源の磨き上げおよびPR強化

- 国内外の観光客が訪れる熊本の顔として、歴史文化、自然、街並み、産業、ポップカルチャーなどの多様な資源を活かした動線づくりおよび更なる魅力化
- 町の南部や北部への新たな人流創出に向けた、肥後大津駅周辺から町全体へ向けた賑わいづくり
- 誘客増と経済効果の最大化に向けた、民間企業との連携や民間人材の受け入れ、マーケティング手法の活用との連携およびインターネットによる情報発信の強化
- 誘客のみに留まらず、ふるさと納税やEC※などにもつなげるための町のファンづくりと、ICTを活用した広報戦略

※ EC (electronic commerce) とは、電子商取引のことで、インターネット通販やネットショップなどの総称

■目標指標

観光情報動画・SNS発信数/アクセス数

令和2年度	令和7年度
203件/307千件	260件/400千件

観光協会総会資料

ふるさと納税寄附額・EC販売額※

令和2年度	令和7年度
624,457千円/年	800,000千円/年

※町および観光協会による合算

1-4-2 滞在型・体験型観光の振興

- 本町の他の観光資源への誘客・送客による町内での滞在・消費拡大へ向けた、道の駅大津やHSR九州等の民間企業との連携・協力体制の強化
- 好アクセス環境、阿蘇を望むまち、豊かな自然等を活かした、農山村生活、日本の伝統的な武道や文化体験、ヘルスツーリズム等の展開
- 広域周遊の確立に向けた、江藤家住宅、不知火光右衛門墓所、世界かんがい施設遺産および新設されたワンピースゾロ像などの目玉施設の活用強化
- 新たな展開に向けた各種団体や近隣市町村との連携およびより合理的な協力体制の構築推進

■目標指標

滞在人口率※

令和2年度	令和7年度
1.07	1.15

※滞在人口率 滞在人口÷当該自治体の人口
RESAS 毎年4月休日10時基準(15~80歳)

宿泊客数

令和2年度	令和7年度
174,439人	270,000人

1-4-3 スポーツコンベンションの推進

- 施設の遊休時間を減らし、収益や経済効果の最大化を図ることに向けた、大型大会の誘致やスポーツキャンプ等の施設を活かしたスポーツコンベンションの推進
- 多種多様な関係者のネットワークを活かしたスポーツ合宿やキャンプの誘致
- 経済効果の最大化に向けた、町の農業、畜産業、商工業、宿泊業、飲食業等との連携体制の構築
- 施設の利便性向上と“町にお金を落とす仕組みづくり”に向けた、「スポーツの森駅」の新設や近隣への商業施設等の誘致の検討

■目標指標

肥後おおづスポーツ文化コミッション※によるスポーツ大会・合宿開催数

令和2年度	令和7年度
1件	5件

※ コミッションとは、コンベンション(大会などの催し、その開催)を推進していくための官民連携の組織の名称

観光入込客数

令和2年度	令和7年度
1,035,587人/年	1,600,000人/年

2.4.3 阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり計画

国土交通省では、水辺を活かして地域の賑わい創出を目指す取組“かわまちづくり”を推進するため、平成21年度に「かわまちづくり」支援制度を創設し、市町村等からの申請にもとづき計画の登録を行い、ハード・ソフト両面から支援を行っています。

阿蘇立野ダム周辺においても、南阿蘇村や大津町、地域で活動されている企業や団体、地域住民等から構成される「阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会」の要望を受け、河川空間を活かした地域の賑わい創出に必要な河川管理施設の検討や、河川敷地占用許可準則22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の検討・支援を実施しています。

阿蘇立野ダム周辺かわまちづくりのテーマ（目標）

阿蘇カルデラの玄関口として、阿蘇立野ダムと南阿蘇の雄大な自然を活かし、復興・交流・新たな観光へ



阿蘇立野ダム周辺かわまちづくりの対象範囲は阿蘇立野ダム周辺地区とし、
ダム堤体付近を「ダム・拠点エリア」、
白川・黒川合流点～鮎返りの滝付近を「清流エリア」と位置付けます。



阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり 利用イメージ(ダム・拠点エリア)



阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり 利用イメージ(清流エリア/白川と黒川の合流点付近)



阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり 利用イメージ(清流エリア/鮎返りの滝付近)

第3章 取組みの理念

3.1 将来像

**阿蘇カルデラの玄関口として、
阿蘇立野ダムと南阿蘇の雄大な自然を活かし、
復興・交流・新たな観光へ**

3.2 基本方針

溪流の恵みに 親しむ・遊ぶ

黒川や白川、鮎返りの滝など、美しく豊かな峡谷を活かした様々なリバーアクティビティをはじめとする体験型のプログラムを実施して、水源地域の魅力を掘り起こします。また、子どもも楽しめる川遊び体験や自然観察等をとおり、安全で楽しい親水空間を創出しながら水源地流域の保全活動に繋がります。

雄大な自然を 活かす・楽しむ

阿蘇立野ダム仮設備ヤード跡地に新設される「多目的記念館（仮称）」を「阿蘇カルデラの玄関口」にふさわしい水源地域の利活用および防災環境学習の情報発信拠点とし、立野峡谷ジオサイト等の大自然を満喫できる機会を提供して広域からの誘客を進めます。また、阿蘇立野ダムの巨大リムトンネルを活用した地元特産品のブランド化を図ります。

交流と連携で ともに創る

気軽なデイキャンプなどを含む短～長期体験型・滞在型観光プログラムを創出し、地域に賑わいと活力を生み出します。また、南阿蘇鉄道や展望所等と各種プログラムのコラボレーションによる回遊性の向上や、阿蘇立野ダムを軸にした両岸町村間の交流促進や連携強化を行い、日常の暮らしにおける支え合いや賑わいづくりにも役立てます。

記憶と知恵を 未来に繋ぐ

阿蘇立野ダム周辺地域では「立野わかもん会」や「たんぽぽの会」「木之内農園」などの地元住民や関連機関による地域活動が活発に行われ、震災からの復興にも大きな役割を果たしてきました。震災の記憶を未来に役立て、地域住民、特に子ども達が楽しめる水源地域ならではの地域活動を支えて住民のシビックプライドを醸成し将来的な地域活性に繋がります。

第4章 施策メニューの具体的な内容

4.1 施策の体系



4.2 行動計画

施策の体系を踏まえ、阿蘇立野ダム水源地域ビジョンの行動計画を以下の通り提案します。

4.2.1 溪流の恵みに親しむ・遊ぶ

黒川や白川、鮎返りの滝など、美しく豊かな峡谷を活かした様々なリバーアクティビティをはじめとする体験型のプログラムを実施して、水源地域の魅力を掘り起こします。また、子どもも楽しめる川遊び体験や自然観察等をとおり、安全で楽しい親水空間を創出しながら水源地流域の保全活動に繋がります。

活動テーマ① リバーアクティビティ

キャニオニング、ラフティング

活動主体：事業者、町村民活動団体

実施時期：夏季（6～9月）

実施場所：阿蘇立野ダム上流（白川、黒川）

実施概要：体ひとつで川を下っていくキャニオニング、ボートによる川くだり（ラフティング）を行います。



SUP、カヌー体験

活動主体：事業者、町村民活動団体

実施時期：夏季（6～9月）

実施場所：阿蘇立野ダム上流（白川、黒川）

実施概要：日常では味わえない SUP やカヌー体験を行います。水辺に親しむ機会の創出を図ります。



活動テーマ② 川遊び・川学び

散策ルート提案

活動主体：南阿蘇村、大津町

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダム周辺

実施概要：みなみあそ観光局により既往開催されている“阿蘇立野ダムインフラツアー”等と連動し、水源地域周辺の資源を巡る散策ルートを設定します。



水辺の環境学習、自然観察教室

活動主体：南阿蘇村、大津町

実施時期：通年 ※水辺の環境学習は夏季（6～9月）

実施場所：阿蘇立野ダム上流（白川、黒川）

実施概要：川の特性や河川環境・阿蘇立野ダムの役割等について学習する環境学習や、立野峡谷の広大な自然をガイドする自然観察教室を開催します。



4.2.2 雄大な自然を活かす・楽しむ

阿蘇立野ダム仮設備ヤード跡地に新設される「多目的記念館（仮称）」を「阿蘇カルデラの玄関口」にふさわしい水源地域の利活用および防災環境学習の情報発信拠点とし、立野峡谷ジオサイト等の大自然を満喫できる機会を提供して広域からの誘客を進めます。また、阿蘇立野ダムの巨大リムトンネルを活用した地元特産品のブランド化を図ります。

活動テーマ③ ネイチャーアクティビティ

ジップライン

活動主体：南阿蘇村、事業者

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダム

実施概要：立野峡谷を横断し、南阿蘇の雄大な自然や阿蘇立野ダムを一望できるジップラインを運営します。

スポーツイベント

活動主体：南阿蘇村、大津町

実施時期：年に1回程度

実施場所：多目的記念館（仮称）、立野小学校跡地

実施概要：ダム周辺の利用促進を目的としたスポーツイベント（サッカー、マラソン大会等）を実施します。

活動テーマ④ リムトンネルの活用

ワイン貯蔵、販売、ワインバー

活動主体：南阿蘇村、事業者

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダム、阿蘇立野ダムの周辺施設（飲食店等）

実施概要：阿蘇立野ダムのリムトンネルを貯蔵庫として活用した南阿蘇村製造の赤ワインを、阿蘇立野ダムの周辺施設で販売・提供します。



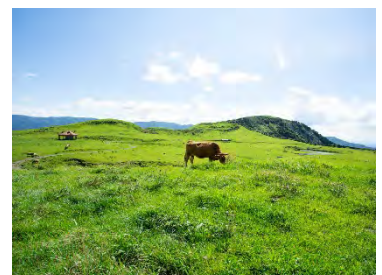
地元農産物育成、ブランド化

活動主体：南阿蘇村、大津町

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダムの周辺施設（飲食店等）

実施概要：地元農産物の活性化を目的に、あか牛等の水源地域特有のブランド商品の開発・販売を行います。



4.2.3 交流と連携でともに創る

気軽なデイキャンプなどを含む短～長期体験型・滞在型観光プログラムを創出し、地域に賑わいと活力を生み出します。また、南阿蘇鉄道や展望所等と各種プログラムのコラボレーションによる回遊性の向上や、阿蘇立野ダムを軸にした兩岸町村間の交流促進や連携強化を行い、日常の暮らしにおける支え合いや賑わいづくりにも役立てます。

活動テーマ⑤ 体験型・滞在型プログラム

峡谷キャンプ、デイキャンプ

活動主体：南阿蘇村、事業者

実施時期：通年

実施場所：多目的記念館（仮称）、阿蘇立野ダム周辺

実施概要：多目的記念館（仮称）や完成後の阿蘇立野ダム周辺の敷地を活用した、宿泊を伴うキャンプや日帰りのデイキャンプを行える場所を提供します。

自然体験ツーリズム

活動主体：事業者、町村民活動団体

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダム周辺

実施概要：みなみあそ観光局により既往開催されている“阿蘇立野ダムインフラツアー”等と連動し、水源地域周辺の温泉・宿泊施設と連動した滞在型観光プログラムを創出します。

活動テーマ⑥ 交流促進・連携強化

拠点とのコラボレーション

活動主体：南阿蘇村、大津町、事業者

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダムの周辺施設（展望所等）

実施概要：南阿蘇鉄道や展望所等と各種プログラムのコラボレーションによる回遊性の向上や、阿蘇立野ダムを軸にした兩岸町村間の交流促進や連携強化を行います。



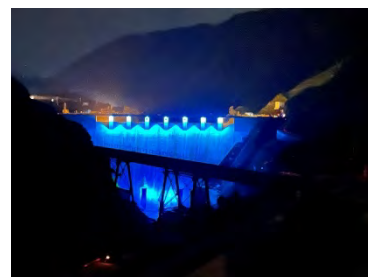
ライトアップ、プロジェクションマッピング

活動主体：南阿蘇村、大津町

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダム堤体

実施概要：ダムを観光資源の一つとして、特に夜の利活用方法を内外に発表することで、宿泊をセットにした地域振興につなげていきます。



4.2.4 記憶と知恵を未来に繋ぐ

阿蘇立野ダム周辺地域では、「立野わかもん会」や「たんぼぼの会」「木之内農園」などの地元住民や関連機関による地域活動が活発に行われ、震災からの復興にも大きな役割を果たしてきました。震災の記憶を未来に役立て、地域住民、特に子ども達が楽しめる水源地域ならではの地域活動を支えて住民のシビックプライドを醸成し、将来的な地域活性に繋がります。

活動テーマ⑦ 地域活動

水源地保全活動

活動主体：事業者、町村民活動団体、町村民

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダム周辺

実施概要：国の天然記念物“阿蘇北向谷原始林”周辺の森林や柱状節理、阿蘇カルデラの玄関口にある立野地区の豊かな自然を保全するため、町村民活動団体や町村民による水源地域の保全活動（清掃活動、自然体験プログラム等）を行います。



地域活性イベント等の企画

活動主体：町村民活動団体、町村民

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダム周辺、立野小学校跡地等

実施概要：フットパス等、立野地区の賑わいを取り戻すための各種イベントが既に実施されています。このような地域活性イベントを継続開催するとともに、新たな資源（阿蘇立野ダム、南阿蘇鉄道）を活かしたイベントの企画・定着を図ります。



活動テーマ⑧ 未来に繋ぐエトセトラ

インフラツアー、防災学習

活動主体：南阿蘇村、大津町

実施時期：通年

実施場所：阿蘇立野ダム周辺

実施概要：白川による水害や熊本地震による震災遺構と連携したインフラツアーを行い、防災学習としても活用します。インフラツアーをきっかけとして地域の活性化につなげます。



情報発信、広報活動

活動主体：南阿蘇村、大津町、町村民

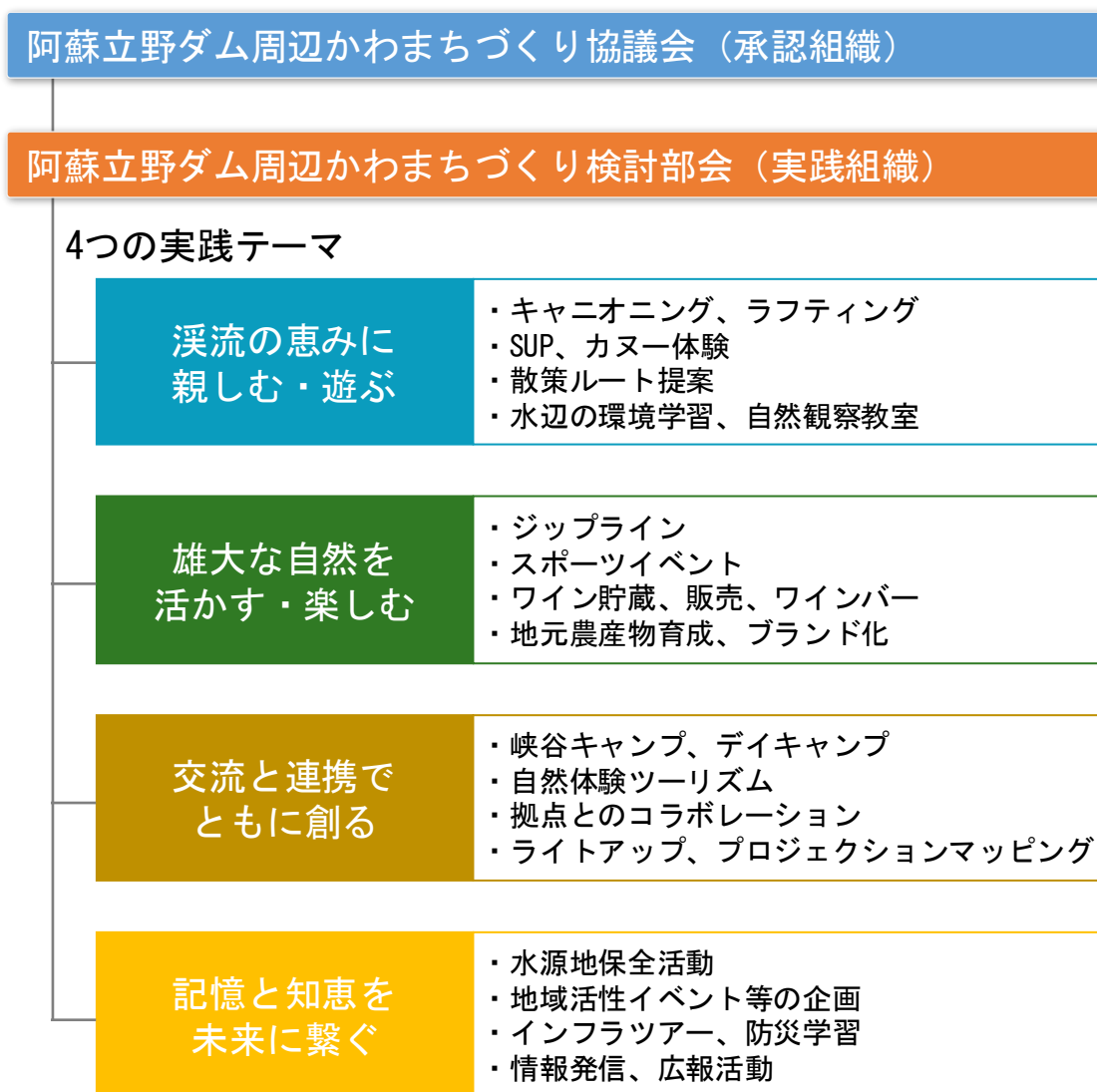
実施時期：通年

実施概要：水源地域の美しい風景やスポット等の情報収集・紹介等により水源地域の魅力を発信します。情報発信はSNSを活用し地域の魅力を世界に広く発信します。

第5章 推進方策

5.1 推進体制

当面は「阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり検討部会」が中心となって、4つの実践テーマに沿った水源地域ビジョンの施策の推進を図ります。



5.2 推進スケジュール

水源地域ビジョンの取り組みは、ビジョン策定後、「阿蘇立野ダム周辺かわまちづくり協議会」において、方向性を確認・検討しながら、具体的な展開・事業推進を図ります。

